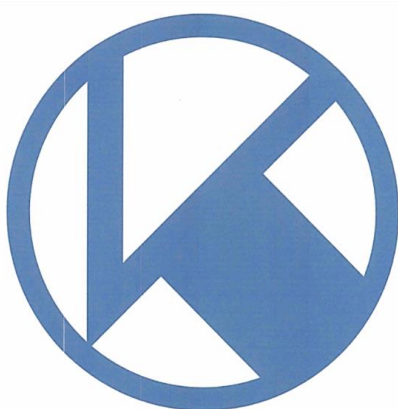


2023年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



メディカルスポーツ
柔道整復学科

1年生

学校法人こおりやま東都学園

メディカルスポーツ柔道整復学科 2023年度生 履修一覧

1年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	人間発達学	
	栄養学	
	情報処理概論	
	医療倫理	●
	運動の科学 I	
	保健体育	
	外国語	
人体の構造と機能	解剖学 I	●
	生理学 I	●
	生理学 II	●
疾病と傷害	整形外科学	●
保健医療福祉と 柔道整復の理念	医学史	
	柔道 I	●
基礎柔道整復学	柔道整復学総論	●
	包帯法	●
	柔道整復特論 I	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学 I	●
	物理療法	●
柔道整復実技	スポーツ外傷予防学	
	保存療法	●
	柔道整復実技 I	●
臨床実習	臨床実習 I	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
科学的思考の基礎 人間と生活	運動の科学 II	
人体の構造と機能	解剖学 II	●
	解剖学実習	●
	老年学 I	●
	スポーツ生理学	●
疾病と傷害	運動学	●
	一般臨床医学	●
	病理学概論	●
	外科学概論	●
	リハビリテーション概論	●
柔道整復術の適応	柔道整復術の適応	●
保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道 II	●
	公衆衛生学	●
	職業倫理	●
社会保障制度	社会保障制度	●
基礎柔道整復学	柔道整復特論 II	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学 II	●
	臨床柔道整復学 III	●
	臨床柔道整復学 IV	●
柔道整復実技	柔道整復実技 II	●
	柔道整復実技 III	●
	柔道整復実技 IV	●
	老年学 II	●
臨床実習	臨床実習 II	●

3年		
教育内容	科目名	国家試験 該当科目
人体の構造と機能	生体構造特論	●
	生体機能特論	●
保健医療福祉と 柔道整復の理念	柔道 III	●
	関係法規	●
基礎柔道整復学	基礎柔道整復学セミナー	●
臨床柔道整復学	臨床柔道整復学セミナー	●
	臨床的判断(画像理解)	●
柔道整復実技	柔道整復実技セミナー	●
臨床実習	臨床実習 III	●

1. 基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
人間発達学		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
<p>私たちが健康を考える場合、発育・発達という観点を大切にして考えることは非常に重要である。この講義は、発育・発達という概念を正しく理解できるようにそれぞれの内容に触れるとともに、発育・発達を考慮した体づくり及びトレーニング方法について解説する。</p>					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
<p>①スカモンの発育・発達曲線をもとに4つの基本パターンを理解する。 ②どの時期にどのようなトレーニングを行うと体が正常に発達するかを理解する。 ③運動能力がどのように向上するかを理解する。 ④ ⑤</p>				<p>知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力</p>	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	発育・発達とは	人間発達について、発達要因、基本原則を理解する			個人
2	発育・発達と健康	人間の発達領域、発達段階について理解する			個人
3	乳幼児期までの発育・発達	発達検査の進め方の概要を理解する			個人
4	児童・青少年期の発育・発達	児童・青少年期の正常発達についてその発達学的特徴を理解する			個人
5	発育・発達の科学	身体、運動、認知、言語、心理、及び社会性の発達学を理解する			個人
6	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ1	適度の運動へのアプローチ			個人
7	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ2	バランスのとれた栄養へのアプローチ			個人
8	発育・発達を考慮した健康へのアプローチ3	休養のとり方へのアプローチ			個人
9	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ1	体力の捉え方へのアプローチ			個人
10	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ2	健康関連体力へのアプローチ			個人
11	発育・発達を考慮したトレーニングへのアプローチ3	体力と運動能力、生活活動能力を利用して			個人
12	発育・発達を考慮したスポーツ実践1	運動の欲求を理解して実践する			個人
13	発育・発達を考慮したスポーツ実践2	身体運動の重要性を理解して実践する			個人
14	発育・発達を考慮したスポーツ実践3	発育・発達期における健康の実地と問題を理解し実践する			個人
15	発育・発達を考慮したスポーツ実践4	発育・発達期の特性を理解し実践する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】	出村慎一監修 テキスト保健・体育(改訂版) 大修館書店				
【参考書】	藤井勝紀 発育・発達へのアプローチ 三患者				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
栄養学		辻 匡子			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
日本人の健康と栄養状況は、医療・介護制度と生活レベルの向上により著しく高いものになり、平均寿命が男女ともに世界一を維持している。一方で、長年の食生活習慣の不摂生により生じる「生活習慣病」を理解し予防することを学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①栄養の基本概念と栄養学の歴史について理解する。 ②ライフステージと食生活との関わりを理解する。 ③栄養学が身体で利用されるメカニズムを理解する。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	栄養とは		栄養の定義、ヒトの成長と栄養、ヒトの健康と栄養について理解する。また、栄養素の定義、分類と役割について概説する。		個人
2	栄養学のあゆみ		古代から現代までの長い間に栄養学という学問がどのように生まれ発展し、体系化されたか、振り返ってみる。		個人
3	栄養素とそのはたらき (1)炭水化物		栄養素として食物に含まれる糖質の種類について解説する。糖質の種類、分類、化学構造について学ぶ。		個人
4	栄養素とそのはたらき (2)炭水化物		糖質が体内でエネルギーを発生し、二酸化炭素と水に分解するまでの過程を学ぶ。		個人
5	栄養素とそのはたらき (1)脂質		脂質の定義、分類、化学構造を生体内での役割について学ぶ。特に必須脂肪酸の理解をする。		個人
6	栄養素とそのはたらき (2)脂質		ヒトとエネルギー源として重要な脂質の体内での代謝について学ぶ。また、脂質の健康に及ぼす影響について知る。		個人
7	栄養素とそのはたらき (1)タンパク質		タンパク質の摂取の意義、化学構造、代謝を学習する。タンパク質の構成成分であるアミノ酸、特に必須アミノ酸を理解する。		個人
8	栄養素とそのはたらき (2)タンパク質		タンパク質の栄養価の評価方法を学ぶ、タンパク質のアミノ酸の補足効果を理解する。		個人
9	栄養素とそのはたらき ビタミン		微量栄養素として重要な脂溶性ビタミン、水溶性ビタミンの種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。		個人
10	栄養素とそのはたらき ミネラル(無機質)		微量栄養素として重要なミネラル(無機質)の種類、体内での役割、欠乏症、過剰症、摂取量について学ぶ。		個人
11	水と食物繊維		水と代謝と出納と機能性非栄養成分である食物繊維の分類、栄養学的効果を学ぶ。		個人
12	消化と吸収		消化器官と消化酵素、糖質、脂質、タンパク質の消化吸收機能、食物の消化吸収に関する過程について理解する。		個人
13	エネルギー代謝		ヒトに必要なエネルギーの摂取と消費について学習する。エネルギー出納と体重変化に関する過程について理解する。		個人
14	スポーツと栄養		スポーツ栄養の理論を踏まえた基礎的な知識の習得をする。		個人
15	スポーツと栄養		活動時の栄養素等、摂取量を各種目別に特徴を学ぶ。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%	
【教科書】	基礎栄養学 化学同人				
【参考書】	必要に応じて印刷物を配布する				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 指示された問題を解答し、提出する。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
情報処理概論		瀬谷 由美子			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
文書、表、プレゼンテーション資料をパソコンを用いて作成するための知識について学習する。					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①パソコン上で情報やデータを取り扱うための基本的な知識・能力(情報リテラシー)を身に付ける。 ②プレゼンテーションの基本を身に付ける。 ③ ④ ⑤					知識・理解
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	情報処理の基礎知識	オリエンテーション、コンピュータとインターネット、Windowsの基礎知識、講義の概要とパソコン上でOfficeを利用するための基本知識が理解できる			個人
2	Wordによる文書の作成と管理	Wordの基礎知識、文書の作成、文書の印刷とページ設定。Wordで文書を作成し、管理するための基本となる手順・操作ができる			個人
3	Wordによる表の作成と文書の編集	表の作成、文書の編集。文書に挿入する表作成と文書編集の手順・操作ができる			個人
4	Wordによる既存のデータを利用した文書の作成	表現力をアップする。既存のデータや写真を文書に挿入して利用する方法が理解できる			個人
5	Wordによる長文作成	長文作成をサポートする、ビジネス文書の基礎知識。長文の目次の設定方法、及び実務で使用する文書作成の基本的ルールが理解できる			個人
6	Excelによる表作成の基本操作	Excelの基本知識、データの入力・編集。Excelで表を作成するための基本となる手順・操作が理解できる			個人
7	Excelによる表の編集と印刷	表の作成、表の印刷。表を見易く、使い易くするための編集・印刷の手順・操作が理解できる			個人
8	Excelによるグラフの作成とデータ操作	いろいろな数式。集計表を作成するときに用いる数式や関数について理解できる			個人
9	Excelによる集計表の作成	グラフと図形、データベースの利用。グラフ作成、及びデータの並び替えと抽出の手順・操作が理解できる			個人
10	PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成	PowerPointの基礎知識、プレゼンテーションの作成。PowerPointでプレゼンテーション資料を作成するための基本となる手順・操作が理解できる			個人
11	PowerPointによるビジュアル表現	図やオブジェクトの挿入と編集、図表・グラフ・表の挿入と編集、特殊効果の設定、印刷関係の機能。ビジュアルな表現により、質の高いプレゼンテーション資料を作成するための基本となる			個人
12	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション	スライドショーをサポートする機能、プレゼンテーションの基本技能。効果的なプレゼンテーションを行うために必要な基本的ポイントが理解できる			個人
13	PowerPointによる効果的なプレゼンテーションの実際1	自己紹介資料の作成。自己紹介資料の作成から発表までを体験することにより、プレゼンテーション資料作成の知識の定着化を図る			個人
14	PowerPointによる効果的なプレゼンテーション実際2	自己紹介資料を用いたプレゼンテーションの実施と評価。PowerPointを用いたプレゼンテーションの実施と評価を通して、プレゼンテーションの基本を理解する			個人
15	これまでの復習				
期末試験		評価方法	課題の達成度 発表会の結果	30% 70%	
【教科書】	よくわかるWord2019&Excel2019&PowerPoint2019(FOM出版) 情報モラル&情報セキュリティ改訂2版(FOM出版)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医療倫理		前田 信吾			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
医療倫理について、インフォームド・コンセントや守秘義務、医療過誤、医療事故、生命倫理などの観点から学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師としての倫理観を習得する。 ②医療倫理の基礎を習得する。 ③医療事故の事例をもとにディスカッションを行い、現場での対応力を身につける。 ④ ⑤				問題解決力 コミュニケーションスキル	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法、レポートについての説明。倫理とは？			個人
2	医療倫理と法律と倫理	法律と倫理の比較と医療行為の関係とそれぞれの違いについて理解する。			個人
3	医療倫理の基礎	ヒポクラテスの誓い、パターナリズム、ニュルンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言など、インフォームド・コンセントが提唱されるようになった背景を学習する。			個人
4	医療倫理の四原則	自律尊重原則、無危害原則、善行原則、正義原則について学習する。			個人
5	医療従事者・患者関係	患者に信頼される柔道整復師について学習する。主に身だしなみやコミュニケーションについて学習する。			個人
6	守秘義務と個人情報保護	柔道整復師の守秘義務が適応となる範囲や、個人情報について学習する。			個人 グループ
7	インフォームド・コンセント	実際の現場でインフォームド・コンセントが行われている事例について学習する。			個人 グループ
8	遺伝医療・生殖医療	遺伝医療や生殖医療の現在、倫理的に話されるのか理由を学び、それに対する自己の考えを持つ。			個人 グループ
9	再生医療	iPS細胞などがなぜ倫理的に問われるのか学び、それに対する自己の考えを持つ。			個人 グループ
10	脳死・臓器移植	ヒトの死をどこにするか、自分の死のラインを自分で決めるための理解および自己の死の線引きに関する考えを持つ。			個人 グループ
11	終末期	柔道整復師が、終末期医療患者に対して何ができるのか、具体的な事例をもとに学習する。			個人 グループ
12	医療事故	実際の現場で生じている医療事故や訴訟について学習する。			個人 グループ
13	医療資源の配分	限りある医療資源の偏りを防ぎ、可能な限り多くの方へ医療資源が行き渡る様に務める。			個人 グループ
14	研究倫理	医療研究を行う者にとって必要な倫理の知り、行う事が有るかも知れない時に備えるようにする。			個人
15	生命科学(まとめ)	医療を行う上で、生命の尊厳を今一度、考え直し、医療人としてこの生命体を考え自己の考えを持つ。			個人 グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	〔改定版〕入門・医療倫理 I				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
運動の科学 I		清水 茂幸			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	実習	2
【授業の概要・目的】					
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成テキストを使用して『競技者育成プログラム』の理念と指導法を身につけ、指導計画やトレーニング方法を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①スポーツ指導の基礎知識と指導方法を身につける。 ②多様なニーズに対応した知識と指導方法を身につける。 ③競技者育成の高度な知識と指導方法を身につける。 ④ ⑤				知識・理解 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	コーチングを理解しよう		コーチングとは コーチに求められる役割を理解する		グループ
2	コーチングを理解しよう		コーチに求められる役割を理解する		グループ
3	コーチングを理解しよう		コーチに求められる役割求められる知識とスキルを理解する 対他者力を磨こう		グループ
4	コーチングを理解しよう		対他者力を磨こう		グループ
5	コーチングを理解しよう		対自己力を磨こう		グループ
6	コーチングを理解しよう		スポーツの意義と価値を理解する		グループ
7	コーチングを理解しよう		スポーツの意義と価値を理解する スポーツの価値を守るスポーツ権を理解する		グループ
8	コーチングを理解しよう		スポーツの自治-ガバナンスとコンプライアンス-を理解する 暴力・ハラスメントの根絶、スポーツのインテグリティ		グループ
9	コーチングを理解しよう		スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任 スポーツ仲裁、倫理、時代をリードするコーチングを理解する		グループ
10	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系を理解する		グループ
11	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系を理解する		グループ
12	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		体カトレーニングを理解する		グループ
13	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		体カトレーニングを理解する		グループ
14	グッドコーチに求められる 医・科学的知識		体カトレーニングを理解する		グループ
15	まとめ				グループ
期末 試験	レポート		評価方法	レポート 90% 受講態度 10%	
【教科書】	公益財団法人日本スポーツ協会 『Reference Book』				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保健体育(1/2)		小松 未来			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メカニカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
基礎教養科目として位置づけ、自己の健康・維持増進を図り運動技能を高め、かつ生涯スポーツへと繋げる。さらに、これまで体験してきた球技やレクリエーション種目等の技術向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高めることができる。 ②簡易ゲームを段階を追って行い、チームワークと技術向上を図ることができる。 ③楽しみながら実践することでコミュニケーション力を高めることができる。 ④体力増強を図り、逞しく生きる力を培うことができる。 ⑤簡易ゲームでは作戦を練り、互いに勝敗を競い合うことができる。				考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】 体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリ等を身に付けたままの受講は認めない。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	1.ストレッチング運動の方法 2.活動時における取り組み方 3.器具・機材の安全管理などを理解する。			グループ
2	バレーボール	簡易ゲームによる個々の技能確認。仲間と積極的にコミュニケーションを取り、グループ活動に参加する。			グループ
3	バレーボール	実践に近い様式での集団技能の練習と習得。基礎技術(サーブ・パス・レシーブ・スパイク等)を身に付ける。			グループ
4	バレーボール	実践に近い様式でのゲーム感覚の練習。レシーブ⇒トス⇒スパイクという連携技能を習得する。			グループ
5	バレーボール	男女別チームによるゲーム。レシーブ技術の習得を最重点と理解すること。チームの仲間と連携しながら、競い合う。			グループ
6	バレーボール	男女混合によるゲーム。ポジションの役割と理解。前衛＝アタック、後衛＝レシーブ。セッターの選定。トスが上があれば成功。			グループ
7	バレーボール	男女混合によるゲーム。男女の基本的技能の差異を理解したゲームコントロールを身に付ける。			グループ
8	卓球	個人技能の練習と習得。シェイク型・ペンシル型が自分に合う持ち方を探す。フォア・バックの返球技術を身に付ける。			グループ
9	卓球	ダブルスの簡易ゲーム。コンビプレーを通し、コミュニケーションを取り、競い合う中で、ゲームの展開を楽しむ。			グループ
10	卓球	リーグ戦の実施。男女の基本的技能の差異を理解したゲームコントロールを身に付ける。			グループ
11	バドミントン	個人技能の練習と習得。色々な種類の打ち分け方について理解する。フォア・バックの返羽の仕方を身に付ける。			グループ
12	バドミントン	ダブルスの簡易ゲーム。コンビプレーを通し、前衛・後衛の役割や動きについて理解する。			グループ
13	ドッチビー	簡易ゲームによる個々の技能練習。フリスビーの投げ方のポイントを理解し、コントロール技術を身に付ける。			グループ
14	試験	実技試験を行う。			グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う。			グループ
期末試験	実施あり	評価方法	実技試験	60%	授業への貢献
				40%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日頃からストレッチ・ジョギング・筋トレ等を行い基礎体力を養う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保健体育(2/2)		小松 未来			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
ディパルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
基礎教養科目として位置づけ、自己の健康・維持増進を図り運動技能を高め、かつ生涯スポーツへと繋げる。さらに、これまで体験してきた球技やレクリエーション種目等の技術向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各種のスポーツに触れ、実践することで基礎的な運動技能を高めることができる。 ②簡易ゲームを段階を追って行い、チームワークと技術向上を図ることができる。 ③楽しみながら実践することでコミュニケーション力を高めることができる。 ④体力増強を図り、逞しく生きる力を培うことができる。 ⑤簡易ゲームでは作戦を練り、互いに勝敗を競い合うことができる。				考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力	
【履修上の注意】 体操着、体育館シューズ、水分の準備を徹底すること。※私服、実習着、実習靴、アクセサリ等を身に付けたままの受講は認めない。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	フットサル	個人技能の練習と習得。ボールコントロールを身に付ける。 (1)パス⇒トラップ⇒パス (2)リフティング⇒パス			グループ
2	フットサル	実践に近い様式での集団技能の練習と習得。前へパスを出す感覚を身に付ける。ドリブル⇒パス⇒シュート			グループ
3	フットサル	実践に近い様式でのゲーム感覚の練習。チームを結成し、技術の向上を図る。3on3ハーフコートでの連携プレー⇒シュート			グループ
4	フットサル	男女別チームによるゲーム。5on5で実施。身体接触・シュートボール・スピードなど安全管理について理解する。			グループ
5	フットサル	男女混合によるゲーム。男女の基本的技能の差異を理解したゲームコントロールを身に付ける。			グループ
6	フットサル	男女混合によるゲーム。男女の基本的技能の差異を理解したゲームコントロールを身に付ける。			グループ
7	バスケットボール	個人技能の練習と習得。基本技術(ドリブル・パス・シュート等)を身に付ける。			グループ
8	バスケットボール	実践に近い様式での集団技能の練習と習得。スリーメンブレイクアウト・リバウンド⇒パス⇒ドリブル⇒パス⇒シュート			グループ
9	バスケットボール	実践に近い様式でのゲーム感覚の練習。チームを結成し、技術の向上を図る。3on3ハーフコートでの連携プレー⇒シュート			グループ
10	バスケットボール	男女別チームによるゲーム。ディフェンスはどうか・マンツーマンかゾーンか。作戦を立て、楽しくゲームに参加する。			グループ
11	バスケットボール	男女混合によるゲーム。男女の基本的技能の差異を理解したゲームコントロールを身に付ける。			グループ
12	運動指導計画と実施①	各グループがクラスメイトに対し、運動指導を行う。生活の中で計画的に運動を実践していく考え方や方法を身に付ける。			グループ
13	運動指導計画と実施②	各グループがクラスメイトに対し、運動指導を行う。生活の中で計画的に運動を実践していく考え方や方法を身に付ける。			グループ
14	試験	実技試験を行う。			グループ
15	まとめ	これまでの到達度の確認と各活動の振り返りを行う。			グループ
期末試験	実施あり	評価方法	実技試験 60%	授業への貢献 40%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		日頃からストレッチ・ジョギング・筋トレ等を行い基礎体力を養う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
外国語(1/2)		刈屋 俊樹			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディアスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や様々な表現方法を覚え、考える力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①コミュニケーション能力の向上 ②基本的な発音方法の習得 ③英語を話す喜びの体得 ④ ⑤				コミュニケーションスキル 前に踏み出す力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1 講義に集中し、積極的に発話する		個人
2	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1 講義に集中し、積極的に発話する		個人
3	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1 講義に集中し、積極的に発話する		個人
4	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1 講義に集中し、積極的に発話する		個人
5	フォニックス、絵本読解指導 絵本1指導:「No,David!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本1 講義に集中し、積極的に発話する		個人
6	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2 講義に集中し、積極的に発話する		個人
7	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2 講義に集中し、積極的に発話する		個人
8	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2 講義に集中し、積極的に発話する		個人
9	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2 講義に集中し、積極的に発話する		個人
10	フォニックス、絵本読解指導 絵本2指導:「I LIKE ME!」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本2 講義に集中し、積極的に発話する		個人
11	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3 講義に集中し、積極的に発話する		個人
12	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3 講義に集中し、積極的に発話する		個人
13	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3 講義に集中し、積極的に発話する		個人
14	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3 講義に集中し、積極的に発話する		個人
15	フォニックス、絵本読解指導 絵本3指導:「THE CARROT SEED」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 絵本3 講義に集中し、積極的に発話する		個人
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 70%	授業への貢献 30%
【教科書】	「No,David!」「I LIKE ME!」「THE CARROT SEED」				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 講義を集中して受講し、英語での発音を積極的に行う					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
外国語(2/2)		刈屋 俊樹			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディアスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
アメリカの代表的な絵本を教材として使用し、講義を行う。絵本を通して文化や習慣の違いを理解し、発音の仕方や柔道整復師としての様々な表現方法を覚え、考える力を身に付ける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①コミュニケーション能力の向上 ②基本的な発音方法の習得 ③英語を話す喜びの体得 ④柔道整復師としての英会話力向上 ⑤				コミュニケーションスキル 前に踏み出す力 考え抜く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材 講義に集中し、積極的に発話する		個人
2	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材 講義に集中し、積極的に発話する		個人
3	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材 講義に集中し、積極的に発話する		個人
4	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材 講義に集中し、積極的に発話する		個人
5	絵本読解指導 補充教材:「Love you forever」		授業導入における言語活動、発音指導、絵本読解指導 補助教材 講義に集中し、積極的に発話する		個人
6	実践演習 会話文作成		授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
7	実践演習 会話文作成		授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
8	実践演習 会話文作成		授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
9	実践演習 会話文作成		授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
10	実践演習 会話文作成		授業導入における言語活動、実践的会話文作成演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
11	実践演習 会話文口頭演習		授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
12	実践演習 会話文口頭演習		授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
13	実践演習 会話文口頭演習		授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
14	実践演習 会話文口頭演習		授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
15	実践演習 会話文口頭演習		授業導入における言語活動、実践的会話文口頭演習 講義に集中し、積極的に発話する		個人
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 70%	授業への貢献 30%
【教科書】	補充教材「Love you forever」				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		講義を集中して受講し、講義内容の復習を積極的に行う			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

2. 專門基礎分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学 I (1/2)		高橋 洋一			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	4
【授業の概要・目的】					
解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学 I では、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、人体の基礎構造および骨格系について学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③ ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	人体解剖学概説 1	解剖学の意義、解剖学の分類、解剖学用語、人体各部の名称			個人
2	人体解剖学概説 2	細胞			個人
3	人体解剖学概説 3	組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)			個人
4	人体解剖学概説 4	人体の発生			個人
5	人体解剖学概説 5	各組織、器官の発生、器官の定義、器官系			個人
6	運動系 骨格系 1	人体の区分、細区分、区分線			個人
7	運動系 骨格系 2	骨の役割、骨の形状による分類、骨の構造、骨の発生と成長			個人
8	運動系 骨格系 3	骨表面の形状についての用語、骨の連結			個人
9	運動系 骨格系 4	関節の分類			個人
10	運動系 骨格系 5	各論 脊柱			個人
11	運動系 骨格系 6	各論 胸郭			個人
12	運動系 骨格系 7	各論 上肢骨			個人
13	運動系 骨格系 8	各論 上肢の関節			個人
14	運動系 骨格系 9	各論 下肢骨			個人
15	運動系 骨格系 10	各論 下肢の関節			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)				
【参考書】	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第2版 (医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学の教科書をよく読み、予習復習を怠らないこと					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
解剖学 I (2/2)		高橋 洋一、山本 茂久			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	4
【授業の概要・目的】					
解剖学は、正常な人体の構造と機能を追究する学問であり、生体(ヒトを含み)の機能を研究する学問である生理学とあわせて、基礎中の基礎の領域である。解剖学 I では、柔道整復師としての基礎知識の必要性を認識するために、人体の基礎構造および骨格系について学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①解剖学総論を学ぶ。 ②運動器を学ぶ。 ③脳・神経構造と機能を学習する。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	運動系 骨格系 11(高橋)		各論 頭蓋		個人
2	運動系 骨格系 12(高橋)		頭蓋底、頭蓋泉門、顎関節		個人
3	運動系 筋系 1(高橋)		筋組織の種類と特徴、筋の形態		個人
4	運動系 筋系 2(高橋)		筋の起始部・停止部、筋の作用、筋の補助装置		個人
5	運動系 筋系 3(高橋)		頭部(表情筋・咀嚼筋)・頸部の筋		個人
6	運動系 筋系 4(高橋)		胸部・腹部・背部の筋		個人
7	運動系 筋系 5(高橋)		肩甲骨に付着する筋と腱板を構成する筋		個人
8	運動系 筋系 6(高橋)		上腕・前腕の筋と支配神経		個人
9	運動系 筋系 7(高橋)		下肢帯・大腿の筋と神経支配		個人
10	運動系 筋系 8(高橋)		下腿の筋と支配神経		個人
11	運動系 筋系 9(高橋)		足の筋と支配神経		個人
12	神経系 1(山本)		神経系の分類とニューロンの構造		個人
13	神経系 2(山本)		脳室系・髄膜・脳脊髄液と脳の発生		個人
14	神経系 3(山本)		末梢神経:脳神経		個人
15	神経系 4(山本)		末梢神経:脊髄神経、自律神経		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)				
【参考書】	プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系 第2版 (医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の教科書をよく読み、予習復習を怠らないこと					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生理学 I		勝田 新一郎、吉江 進			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
生理学では身体の機能について学ぶ。細胞が集まって組織となり、それが集まって器官を構成し、ある目的を持った器官が集まって系統となる。個々の組織、器官、系統、さらに個体レベルでの機能を形態的特徴と関連付けて学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体を構成する細胞、各組織、器官の構造と機能について理解する。 ②各組織、器官の個々の役割について学ぶ。 ③個体レベルで各組織、器官の関連と生体機能の調節系について学ぶ。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	生理学概論 (勝田)	生理学の概要、細胞・組織・器官の構成			個人
2	体液のはたらき (勝田)	体液の概念(体液量、組成、移動)、生体調節系(神経性・体液性調節)、生体の内部環境と外部環境、恒常性			個人
3	呼吸 (吉江)	呼吸の概念、呼吸器の構造と機能、呼吸運動			個人
4	呼吸 (吉江)	換気力学、肺気量分画、ガス交換とガスの運搬			個人
5	呼吸 (吉江)	呼吸の調節機構、肺循環、異常呼吸			個人
6	循環 (吉江)	循環の概念、心臓と血管の構造と機能			個人
7	循環 (勝田)	心筋の電気現象、心電図			個人
8	循環 (勝田)	心収縮と心周期、血圧、心拍出量、末梢血管抵抗			個人
9	循環 (勝田)	各器官への血流の配分、微小循環、局所循環			個人
10	循環 (勝田)	短期および長期血圧調節機構			個人
11	体温調節(勝田)	外層温度と核心温度、産熱と放熱散、体温調節、発熱と解熱			個人
12	末梢系神経 (勝田)	末梢神経系(自律神経系、体性神経系)			個人
13	中枢系神経 (勝田)	脊髄、脳幹、小脳の機能			個人
14	中枢系神経 (勝田)	大脳の機能局在と連合機能、脳波と睡眠、意識の保持、学習と記憶			個人
15	中枢系神経 (勝田)	本能行動と情動行動、大脳基底核、中枢と末梢の伝導路、脳脊髄液			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『生理学』改訂第4版 (南江堂)				
【参考書】	系統看護学講座 解剖生理学(人体の構造と機能①) 医学書院				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
生理学Ⅱ		勝田 新一郎、吉江 進			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
生理学では身体の機能について学ぶ。細胞が集まって組織となり、それが集まって器官を構成し、ある目的を持った器官が集まって系統となる。個々の組織、器官、系統、さらに個体レベルでの機能を形態的特徴と関連付けて学習する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①人体を構成する細胞、各組織、器官の構造と機能について理解する。 ②各組織、器官の個々の役割について学ぶ。 ③個体レベルで各組織、器官の関連と生体機能の調節系について学ぶ。 ④ ⑤				知識・理解 問題解決力 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	細胞生理 (1) (吉江)		細胞の構造、細胞小器官と細胞膜の機能		個人
2	細胞生理 (2) (吉江)		神経の興奮と筋収縮		個人
3	血液 (1) (吉江)		血液の成分		個人
4	血液 (2) (吉江)		血液成分の機能		個人
5	泌尿器 (1) (吉江)		腎臓の構造と尿生成		個人
6	泌尿器 (2) (吉江)		膀胱の構造と排尿の仕組み		個人
7	消化・吸収 (1) (吉江)		消化管の構造と機能		個人
8	消化・吸収 (2) (吉江)		消化腺の構造と機能		個人
9	内分泌 (1) (勝田)		ホルモン産生臓器とホルモンの機能		個人
10	内分泌 (2) (勝田)		ホルモン産生臓器とホルモンの機能		個人
11	内分泌 (3) (勝田)		ホルモン産生臓器とホルモンの機能		個人
12	生殖と発生 (勝田)		生殖器の構造と機能、胎児の発生		個人
13	運動の制御 (勝田)		骨格筋の神経支配、中枢神経系による運動の制御、筋電図		個人
14	感覚 (1) (吉江)		特殊感覚(視覚、聴覚、味覚、嗅覚)		個人
15	感覚 (2) (吉江)		体性感覚、内臓感覚		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『生理学』改訂第4版 (南江堂)				
【参考書】	系統看護学講座 解剖生理学(人体の構造と機能①) 医学書院				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
整形外科学		佐藤 正憲			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	2
【授業の概要・目的】					
運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①整形外科の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格する知識をつけること。 ④ ⑤				知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	運動器の基礎—構造と機能	骨の機能・種類・構造および骨代謝について理解する 関節の機能・種類・構造を理解し、滑膜、関節軟骨機能を知る			個人
2	整形外科的診断法	病歴の聴取、視診、触診、動きをみる、計測法を学ぶ 骨・関節の画像診断と神経、筋、関節液の検査法			個人
3	整形外科的治療法	保存治療:安静、固定、牽引、理学療法、薬物療法 手術治療:皮膚、腱、神経、血管、骨、関節、脊椎の手術			個人
4	軟部組織と切断	軟部損傷の種類と部位について解説 切断部位による治療と機能欠損について説明する			個人
5	末梢神経損傷	神経損傷の病態の分類、症状と検査法、治療 代表的な末梢神経損傷について理解する			個人
6	骨折と骨癒合	骨折の分類、症状、合併症を理解する 骨折の治癒、治療、小児骨折の特徴、遷延治癒と偽関節を理解			個人
7	関節・脊椎・胸部の外傷	関節血腫、靭帯損傷、脱臼と亜脱臼について説明する 頸椎・胸椎・腰椎の骨折、脊髄損傷について解説する			個人
8	上肢の外傷(1)	腕神経叢麻痺、肩甲帯の骨折について理解する 腱板断裂について理解する			個人
9	上肢の外傷(2)	肘と前腕の外傷について理解する 手関節と手の外傷について理解する			個人
10	下肢の外傷(1)	骨盤骨折、股関節脱臼について説明する 大腿骨頸部骨折、転子部骨折について説明する			個人
11	下肢の外傷(2)	膝周辺の骨折について理解する 下腿・足部骨折、アキレス腱断裂について解説する			個人
12	先天異常と無腐性骨壊死	骨形成不全症と骨軟骨異形成症を学ぶ 無腐性骨壊死の部位と原因、診断法、治療について学ぶ			個人
13	骨腫瘍と軟部腫瘍	骨軟骨腫、骨肉腫などについて解説する 軟部良性腫瘍、悪性腫瘍について解説する			個人
14	これまでの復習1	前期に学習した内容を再度確認する			個人
15	これまでの復習2				個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 90% 受講態度 10%		
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『整形外科学』改訂第4版 (南江堂)				
【参考書】	標準 整形外科学 第14版				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
医学史		田代 洋司			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	8(15)	講義	1
【授業の概要・目的】					
医学の芽生えから現代までの発展を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①医学の発展、そのきっかけを知り何を感じたかまとめることができる。 ②読解力を向上させることができる。 ③ ④ ⑤				コミュニケーションスキル チームで働く力 統合的学習体験	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	医学の芽生え		四大文明の医学の発展の違いについて理解する		ペア
2	解剖学の夜明け		当時の解剖や怪我の手当てについて理解する		ペア
3	日本医学の歩み①		国外医学の日本への流入やその発展について理解する		ペア
4	日本医学の歩み②		国外医学の日本への流入やその発展について理解する		ペア
5	華岡青州	ジェンナー	世界初の全身麻酔手術について理解する 天然痘ワクチン誕生について理解する		ペア
6	全身麻酔法の発見		全身麻酔の種類やその発見について理解する		ペア
7	消毒法の発見		消毒法発見のきっかけについて理解する		ペア
8	北里 柴三郎	野口 英世	日本近代医学の父について理解する 福島を代表する偉人を知ろう		ペア
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	レポート		評価方法	レポート 60% 受講態度 10%	課題の達成度 30%
【教科書】	(公社)全国柔道整復師協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	まんが 医学の歴史				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 特になし					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道 I (1/2)		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディアスポーツ柔道整復学科	1	通年	23(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
社会に貢献できる柔道整復師となるために、柔道に必要な基本的技能を修得する。また、技能修得を通して心身の鍛錬を重ね、人格形成を図り、礼儀正しい立ち振る舞いを身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①礼法(立礼・座礼)ができる。 ②柔道衣を正しく着れる。 ③柔道基本姿勢、組手、受身を修得する。 ④柔道の精神を体現できる。 ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 前に踏み出す力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	礼法 1		柔道の礼法を説明する		ペア
2	礼法 2		柔道の礼法を身につける		ペア
3	後方受身		後方受身を身につける		個人
4	横受身・前受身		横受身・前受身を身につける		個人
5	前方回転受身 1		立ち膝からの前方回転受身を身につける		個人
6	前方回転受身 2		立位からの前方回転受身を身につける		個人
7	前方回転受身 3		立位からの前方回転受身を身につける		個人
8	投技(大腰) 1		大腰を説明する		ペア
9	投技(大腰) 2		大腰を身につける		ペア
10	投技(大内刈) 1		大内刈を説明する		ペア
11	投技(大内刈) 2		大内刈を身につける		ペア
12	投技(小内刈) 1		小内刈を説明する		ペア
13	投技(小内刈) 2		小内刈を身につける		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ		礼法、受身、投技を確認する		ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道 I (2/2)		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	23(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
社会に貢献できる柔道整復師となるために、柔道に必要な基本的技能を修得する。また、技能修得を通して心身の鍛錬を重ね、人格形成を図り、礼儀正しい立ち振る舞いを身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①投技ができる。 ②固技ができる。 ③柔道姿勢、組手、受身を修得する。 ④柔道の精神を体現できる。 ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性 前に踏み出す力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	投技 1		背負投げの説明を行う		ペア
2	投技 2		背負投げを理解する		ペア
3	投技 3		背負投げを身につける		ペア
4	寝技 1		袈裟固:正しい抑え方と逃げ方を身につける		ペア
5	寝技 2		横四方固:正しい抑え方と逃げ方を身につける		ペア
6	寝技 3		上四方固:正しい抑え方と逃げ方を身につける		ペア
7	実技試験				ペア
8	まとめ		投技、寝技を確認する		ペア
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 日頃の健康管理を十分にして、欠席しないように努める。					
【本講義についての質問先】	担当教員		【質問方法】	教員室にて	

3. 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(1/3) ※実務経験のある教員による授業科目		成田 昌健			担任
		整形外科(柔道整復師)7年勤務、接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
骨損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨損傷について理解をする。 ②様々な骨損傷の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③骨損傷の知識を臨床に応用できるようにする。 ④ ⑤				考え抜く力 情報活用能力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	概説	柔道整復術および柔道整復師の沿革を理解する。			個人
2	人体に加わる力	損傷時に加わる力を理解する。			個人
3	骨の損傷①	骨の形態と機能を理解する。			個人
4	骨の損傷②	骨折の分類を理解する。			個人
5	骨の損傷③	骨折の分類の理解を深める。			個人
6	骨の損傷④	骨折の局所症状を理解する。			個人
7	骨の損傷⑤	骨折の全身症状を理解する。			個人
8	骨の損傷⑥	骨折の合併症(併発症、続発症)を理解する。			個人
9	骨の損傷⑦	骨折の合併症(後遺症)を理解する。			個人
10	骨の損傷⑧	小児骨折を理解する。			個人
11	骨の損傷⑨	高齢者の骨折を理解する。			個人
12	骨の損傷⑩	骨折の癒合日数を理解する。			個人
13	骨の損傷⑪	骨折の治癒経過を理解する。			個人
14	骨の損傷⑫	骨折の予後、整復法を理解する。			個人
15	総復習	骨折の総論のより深い知識を身につける。			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(2/3) ※実務経験のある教員による授業科目		成田 昌健			担任
		整形外科(柔道整復師)7年勤務、接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
脱臼及び軟部組織損傷についての基礎的な知識を習得し活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①脱臼について理解をする。 ②様々な脱臼の表現方法を理解し活用できるようにする。 ③脱臼の知識を臨床に応用できるようにする。 ④軟部組織損傷について理解する。 ⑤				考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	関節の損傷①		関節の構造と機能を理解する。		個人
2	関節の損傷②		関節構成組織の損傷(靭帯、関節包)を理解する。		個人
3	関節の損傷③		関節構成組織の損傷(関節軟骨)を理解する。		個人
4	脱臼①		脱臼の分類を理解する。		個人
5	脱臼②		脱臼の症状、合併症を理解する。		個人
6	脱臼③		脱臼の経過と予後、整復法を理解する。		個人
7	軟部組織損傷①		筋の損傷を理解する。		個人
8	軟部組織損傷②		腱の損傷を理解する。		個人
9	軟部組織損傷③		末梢神経の損傷を理解する。		個人
10	軟部組織損傷④		末梢神経の損傷のより深い知識を身に付ける。		個人
11	軟部組織損傷⑤		軟部組織損傷の初期治療を理解する。		個人
12	診察		診察について理解する。		個人
13	関節可動域①		表示の仕方についての理論を理解する。		個人
14	関節可動域②		測定法の理論を理解する。		個人
15	総復習		脱臼、軟部組織損傷の復習し、より深い知識を身につける。		個人
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			予習復習をしっかりと行う。		
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復学総論(3/3) ※実務経験のある教員による授業科目		成田 昌健			担任
		整形外科(柔道整復師)7年勤務、接骨院(柔道整復師)6年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	45(90)	講義	3
【授業の概要・目的】					
骨折、脱臼、軟部組織損傷の基礎的な知識を深め活用できるようにする。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解を深める ②骨折、脱臼、軟部組織損傷についての知識の応用力を身に付ける ③骨折の知識を説明できるようにする ④ ⑤				考え抜く力 チームで働く力 コミュニケーションスキル 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	骨損傷問題作成	ペアでの復習+問題作成をすることにより理解を深める。			ペア
2	骨損傷問題作成	他のペアが作成した問題を解くことにより理解を深める。			ペア
3	骨損傷問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。			グループ
4	骨損傷問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。			グループ
5	脱臼問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。			グループ
6	脱臼問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。			グループ
7	軟部組織損傷問題作成	グループでの復習+問題作成をすることにより活用できる知識を身につける。			グループ
8	軟部組織損傷問題作成	他グループが作成した問題を解くことにより活用できる知識を身につける。			グループ
9	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成するために骨折について調べ知識を身につける。			グループ
10	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成しより深い知識を身につける。			グループ
11	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成し活用できる知識を身につける。			グループ
12	骨折の授業発表	各グループ授業資料作成し説明できるようにする。			グループ
13	骨折の授業発表	各グループ発表を聞きより深い知識を身につける①			グループ
14	骨折の授業発表	各グループ発表を聞きより深い知識を身につける②			グループ
15	総復習	総論の復習			グループ
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 50% 受講態度 10%	発表会の結果 40%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
包帯法(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		高橋 洋一			担任
		整形外科(柔道整復師)1年勤務、接骨院(柔道整復師)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	包帯固定学総論	固定の目的、固定の範囲、固定の肢位 上記を正しく理解する。			ペア
2	固定材料の種類	硬性材料・軟性材料 各種固定材料を理解する。			ペア
3	巻軸帯の巻き方と注意事項1	包帯の巻き方の基本・持ち方・巻き始めと終わり 上記を正しく理解する。			ペア
4	巻軸帯の巻き方と注意事項2	巻き進め方向・巻き締め強度・均等圧・美しさ・巻く速さ 上記を正しく理解する。			ペア
5	巻軸帯の巻き戻し	巻軸帯の巻き戻し方 上記を正しく理解する。			ペア
6	基本包帯法 1	環行帯・螺旋帯 上記を正しく理解する。			ペア
7	基本包帯法 2	蛇行帯・折転帯 上記を正しく理解する。			ペア
8	基本包帯法 3	亀甲(翼状)帯・麦穂(人字帯、スカルパ巻)帯 上記を正しく理解する。			ペア
9	冠名包帯法 1	デゾー包帯(左右側) 上記を正しく理解する。			ペア
10	冠名包帯法 2	ヴェルポー包帯(左右側)・ジュール包帯(左右側) 上記を正しく理解する。			ペア
11	部位別包帯法 1	肩関節部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
12	部位別包帯法 2	上腕部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
13	部位別包帯法 3	肘関節部固定法・前腕部固定法 上記を正しく理解する。			ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				ペア
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80%	受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
包帯法(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		高橋 洋一			担任
		整形外科(柔道整復師)1年勤務、接骨院(柔道整復師)14年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	通年	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
基礎解剖学・基礎生理学を理解し、軟部組織損傷を系統的に分類し各組織損傷について理解を深める柔道整復学の固定を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①包帯の基本を理解する。 ②各部位の基本的な固定法を学ぶ。 ③ ④ ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	部位別包帯法 4		手関節部固定法・手指部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
2	部位別包帯法 5		股関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
3	部位別包帯法 6		大腿部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
4	部位別包帯法 7		膝関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
5	部位別包帯法 8		下腿部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
6	部位別包帯法 9		足関節部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
7	部位別包帯法 10		足背部固定法・足指部固定法 上記を正しく理解する。		ペア
8	各部位の副子固定1		上肢の各部位を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
9	各部位の副子固定2		体幹の各部位を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
10	各部位の副子固定3		下肢の各部位を副子を用いて固定する。 上記を正しく理解する。		ペア
11	ギプス固定1		石膏ギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
12	ギプス固定2		キャストライトギプスを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
13	ギプス固定3		プライトンを用いた固定法 上記を正しく理解する。		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				ペア
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『包帯固定学』 改訂第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論 I (1/2)		田代 洋司			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する					
【学習目標(到達目標)】					【受講して得られる力】
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤					考え抜く力 問題解決力
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	関節の構造①		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
2	関節の構造②		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
3	関節の構造③		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
4	関節の構造④		骨数による分類 運動軸数による分類 関節面の形状による分類を理解する		ペア
5	上肢骨格筋の起始停止①		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
6	上肢骨格筋の起始停止②		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
7	上肢骨格筋の起始停止③		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
8	上肢骨格筋の起始停止④		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
9	上肢骨格筋の起始停止⑤		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
10	上肢骨格筋の起始停止⑥		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
11	上肢骨格筋の起始停止⑦		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
12	上肢骨格筋の起始停止⑧		上肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
13	下肢骨格筋の起始停止①		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
14	下肢骨格筋の起始停止②		下肢骨格筋の起始停止について理解する		ペア
15	総復習①		関節と筋の起始停止について総合的に理解する		ペア
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト 10%
【教科書】		(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)			
		(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)			
【参考書】		特になし			
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			予習復習をしっかりと行う。		
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復特論 I (2/2)		田代 洋司			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
関節の構造と種類と筋の起始停止を理解する					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①関節を構成する骨を理解することができる ②関節の種類を理解することができる ③筋の起始停止を理解し作用を理解できる ④ ⑤				考え抜く力 問題解決力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	下肢骨格筋の起始停止③	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
2	下肢骨格筋の起始停止④	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
3	下肢骨格筋の起始停止⑤	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
4	下肢骨格筋の起始停止⑥	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
5	下肢骨格筋の起始停止⑦	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
6	下肢骨格筋の起始停止⑧	下肢骨格筋の起始停止について理解する			ペア
7	頭部・体幹骨格筋の起始停止①	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
8	頭部・体幹骨格筋の起始停止②	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
9	頭部・体幹骨格筋の起始停止③	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
10	頭部・体幹骨格筋の起始停止④	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
11	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑤	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
12	頭部・体幹骨格筋の起始停止⑥	頭部・体幹骨格筋の起始停止について理解する			ペア
13	総復習②	関節と筋の起始停止について総合的に理解する			ペア
14	総復習③	関節と筋の起始停止について総合的に理解する			ペア
15	総復習④	関節と筋の起始停止について総合的に理解する			ペア
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『解剖学』 改訂第2版 (医歯薬出版)				
	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学 I (軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤				問題解決力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	頭部・顔面部の軟部組織損傷①	頭部・顔面部打撲 を理解する			個人
2	頭部・顔面部の軟部組織損傷②	顎関節症、顎関節捻挫 を理解する			個人
3	頸部の軟部組織損傷 その①	むちうち損傷 を理解する			個人
4	頸部の軟部組織損傷 その②	胸郭出口症候群、寝違え を理解する			個人
5	胸・背部の軟部組織損傷	胸肋関節損傷、肋間筋損傷 胸背部打撲傷、背部の軟部組織損傷 を理解する			個人
6	腰部の軟部組織損傷	関節性、靭帯性、筋・筋膜性 を理解する			個人
7	頭部・体幹の軟部組織損傷	頭部・体幹の軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
8	肩関節部の軟部組織損傷①	筋・腱の損傷、スポーツ損傷 を理解する			個人
9	肩関節部の軟部組織損傷②	不安定症 を理解する			個人
10	上腕部の軟部組織損傷	橈骨・尺骨神経損傷 を理解する			個人
11	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷、野球肘・テニス肘 を理解する			個人
12	前腕部の軟部組織損傷	前腕コンパートメント症候群、腱交叉症候群、 末梢神経障害 を理解する			個人
13	手関節部の軟部組織損傷	TFCC損傷、ド・ケルバン病、末梢神経障害 キーンベック病、マーデルング変形 を理解する			個人
14	手部・指部の軟部組織損傷	腱・靭帯の損傷、その他の変性疾患および変形 を理解する			個人
15	上肢の軟部組織損傷	上肢の軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床柔道整復学 I (軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
軟部組織損傷の発生機序、症状、治療、見極め方を理解する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①各疾患の発生、症状を理解することができる。 ②各疾患の治療、見極め方を身に付けることができる。 ③キーワード(発生機序、症状)から何の疾患かを導き出すことができる。 ④ ⑤				問題解決力 専門職としてのスキル・意識 論理的思考力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	股関節部の軟部組織損傷①	鼠径部痛症候群、股関節唇損傷 を理解する			個人
2	股関節部の軟部組織損傷②	ばね股、梨状筋症候群 を理解する			個人
3	大腿部の軟部組織損傷	大腿部打撲、肉離れ を理解する			個人
4	膝関節部の軟部組織損傷①	半月板損傷 を理解する			個人
5	膝関節部の軟部組織損傷②	靭帯損傷 を理解する			個人
6	膝関節部の軟部組織損傷③	腸脛靭帯炎、鷲足炎、その他の疾患 を理解する			個人
7	下腿部の軟部組織損傷 その①	アキレス腱の損傷・断裂 を理解する			個人
8	下腿部の軟部組織損傷 その②	肉離れ、スポーツ障害 を理解する			個人
9	足関節部の軟部組織損傷①	足関節捻挫 を理解する			個人
10	足関節部の軟部組織損傷②	足関節捻挫の類症鑑別 を理解する			個人
11	足・趾部の軟部組織損傷	有痛性障害、扁平足障害 を理解する			個人
12	下肢の軟部組織損傷	下肢の軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
13	軟部組織損傷まとめ①	軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
14	軟部組織損傷まとめ②	軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
15	軟部組織損傷まとめ③	軟部組織損傷を総合的に理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
物理療法学		田代 洋司			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が行う物理療法について分類、安全対策、禁忌、使用法を習得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①物理療法の効果と禁忌や危険性を熟知し、患者に適切な物理療法が行えるようになる。 ②物理療法の種類、分類を習得し、各外傷の治療時に適切な手段を選択できるようになる。 ③物理療法と手技療法の組み合わせ方を習得し、効果的な治療を実施できるようになる。 ④ ⑤				問題解決力 考え抜く力 知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	痛みの基礎①	痛みとは何かを理解し、評価・アプローチ方法を学ぶ。			個人
2	痛みの基礎②	痛みとは何かを理解し、評価・アプローチ方法を学ぶ。			個人
3	物理療法総論	物理療法の概念を理解し、正確に取り扱えるよう学ぶ。			個人
4	物理療法各論 電気療法①	電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
5	物理療法各論 電気療法②	電気療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
6	物理療法各論 温熱療法①	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
7	物理療法各論 温熱療法②	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
8	物理療法各論 温熱療法③	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
9	物理療法各論 温熱療法④	温熱療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
10	物理療法各論 光線療法	光線療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
11	物理療法各論 寒冷療法①	寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
12	物理療法各論 寒冷療法②	寒冷療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
13	物理療法各論 牽引療法	牽引療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
14	物理療法各論 その他の物理療法	その他の物理療法のメカニズム、効果、使用上の注意、禁忌、各種類について学ぶ。			個人
15	物理療法まとめ	総合的に物理療法を理解する			個人
期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験 80% レポート 10%	受講態度 10%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	エビデンスから身につける物理療法/庄本康治(羊土社)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習復習をしっかりと行う。					
【本講義についての質問先】 担当教員		【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
スポーツ外傷予防学		村瀬 広行			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
正しい筋カトレーニング、怪我の予防、再発防止などの指導が出来るよう体作りを学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①筋肉の構造を理解する ②正しい姿勢や器具の使い方を理解する ③各部位の筋カトレーニングプログラムの作成ができる ④スポーツ現場での応急処置ができる ⑤手技療法でできる事を理解する				考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	運動生理学①		運動とホメオスタシスを理解する		個人
2	運動生理学②		筋線維の種類やその特徴を理解する		個人
3	競技者と外傷予防 指導管理		外傷の発生要因・指導管理を理解する		ペア
4	関節弛緩性と関節可動域		アライメント・ストレッチング・関節弛緩テストを理解する		ペア
5	スポーツマッサージ		アイシング、揉捏、クリームを用いたマッサージを学ぶ		ペア
6	スポーツテーピング①		足関節テーピング・膝Xサポートを学ぶ		ペア
7	スポーツテーピング②		キネシオテーピングを学ぶ		ペア
8	器具を使わないトレーニング①		器具を使わない筋トレの種類を体験する		ペア
9	器具を使わないトレーニング②		器具を使わない筋トレの種類を体験する		ペア
10	ジムで行うトレーニング(マシン)		各部位のRM測定を行う		ペア
11	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成		無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う		グループ
12	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成		無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う		グループ
13	サーキットトレーニング(ジム) 筋トレプログラムの作成		無酸素運動と有酸素運動の組合せ/グループ学習を行う		グループ
14	筋トレプログラムの発表		実際に作成したプログラムを発表する		グループ
15	これまでの復習		復習する		個人
期末試験	レポート	評価方法	レポート 受講態度	80% 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『競技者の外傷予防』(医歯薬出版) (公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』改訂第7版(南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
保存療法 ※実務経験のある教員等による授業科目		田代 洋司			担任
		整形外科(柔道整復師)12年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	15(30)	実習	1
【授業の概要・目的】					
柔道整復師が行う保存療法と整形外科医が行う観血療法を対比しながら、それぞれの特性や要点を学ぶ。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①柔道整復師が行う保存療法のメリット、デメリット、注意点、適応、要点を理解できる。 ②保存療法と観血療法を比較検討することができる。 ③柔道整復師が行う保存療法での後療法を身につけることができる。 ④測定方法を身につけることができる。 ⑤				知識・理解 問題解決力 考え抜く力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	傷の定義と受診すべき診療科	外傷の定義を正確に知り、柔道整復師が扱うものと病院(各診療科)が対応するものを理解する			ペア・グループ
2	保存療法と観血療法	保存療法と観血療法の内容を把握し メリット、デメリットなどの特性を理解する			ペア・グループ
3	整形外科分野との鑑別診断	整形外科で取り扱われる疾患や外傷について把握し 柔道整復との違いについて理解する			ペア・グループ
4	骨折の整復法	柔道整復師が行う骨折の整復法について理解する			ペア・グループ
5	脱臼の整復法	柔道整復師が行う脱臼の整復法について理解する			ペア・グループ
6	軟部組織損傷の初期処置	柔道整復師が行う軟部組織損傷の 初期処置について理解する			ペア・グループ
7	手技療法	柔道整復師が行う手技療法について理解する			ペア・グループ
8	触診法①	柔道整復師が行う触診法について理解する①			ペア・グループ
9	触診法②	柔道整復師が行う触診法について理解する②			ペア・グループ
10	関節可動域測定	関節可動域測定について理解する			ペア・グループ
11	周径測定	周径測定について理解する			ペア・グループ
12	握力測定	握力測定について理解する			ペア・グループ
13	反射	反射について理解する			ペア・グループ
14	実技試験				ペア・グループ
15	保存療法まとめ	柔道整復術の業務範囲と保存療法の限界を理解する			ペア・グループ
期末試験	実技試験	評価方法	実技試験 80%	受講態度 20%	
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会 監修 『柔道整復学・理論編』 改訂第7版 (南江堂)				
【参考書】	標準整形外科学 第14版/井樋栄二(医学書院)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技 I (軟部損傷)(1/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		村瀬 広行			担任
		接骨院(柔道整復師)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の構造を理解するために、触診、検査を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨・筋の触診が出来る ②関節構造を理解する ③軟部組織損傷の検査法を理解する ④靭帯の触診が出来る ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	骨の基礎① 筋の基礎①		頭部、頸部の骨の触診 顔面部、頸部の筋の触診を学ぶ		グループ
2	骨の基礎③ 筋の基礎②		体幹部の骨の触診 体幹部の筋の触診を学ぶ		グループ
3	筋の基礎④		上腕部、前腕部の筋の触診を学ぶ		グループ
4	骨・筋のまとめ		上肢の骨、筋の触診を学ぶ		ペア
5	胸郭出口症候群		概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
6	上肢帯損傷 肩板損傷、インピンジメント		概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
7	骨の基礎④ 関節の構造②		手根骨、指骨の触診 手関節、指関節の構造を学ぶ		ペア
8	骨の基礎⑤ 筋の基礎⑤		大腿部、下腿部の骨の触診 大腿部の筋の触診を学ぶ		ペア
9	関節の構造③-1		股関節、膝関節の構造 半月板損傷の検査法を学ぶ		ペア
10	関節の構造③-2		膝関節の構造 膝関節周囲靭帯の触診・検査法を学ぶ		ペア
11	筋の基礎⑥		下腿部筋の触診 足部の筋の走行を理解する		ペア
12	関節の構造③ 足関節靭帯		足関節の構造、足根骨の触診 足関節靭帯の触診・検査法を学ぶ		ペア
13	総復習		全身の骨、筋の名称 関節の構造を学ぶ		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				個人
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 受講態度 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
柔道整復実技 I (軟部損傷)(2/2) ※実務経験のある教員等による授業科目		村瀬 広行			担任
		接骨院(柔道整復師)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	30(60)	実習	2
【授業の概要・目的】					
柔道整復師の業務範囲内の軟部組織損傷の治療を理解するために、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①骨・筋の触診が出来る ②整復法、固定法を理解する ③応急手当ができる ④後療法を考えることができる ⑤				知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	骨の基礎②		上肢帯・上腕骨・前腕骨の骨の触診を学ぶ		グループ
2	筋の基礎③ 関節の構造①		上肢帯部、上腕部、前腕部の筋の触診 肩関節、肘関節の構造を学ぶ		グループ
3	骨の基礎④ 関節の構造②		手根骨、指骨の触診 手関節、指関節の構造を学ぶ		グループ
4	頸部損傷、椎間関節捻挫 むちうち損傷、寝違え		頸椎構造、概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
5	肋間筋損傷 腰椎捻挫、ヘルニア、脊柱管狭窄症		胸郭構造、脊柱構造概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
6	上腕・前腕部損傷 二頭筋断裂、外側上顆炎、肘MCL損傷		概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
7	マレットフィンガー、ロッキングフィンガー PIP側副韌帯損傷、第1指MP関節損傷		指関節構造、概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
8	大腿四頭筋肉離れ ハムストリングス肉離れ		概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
9	半月板損傷		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
10	ACL&PCL損傷 MCL&LCL損傷		ACL・PCL・MCL・LCL損傷 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
11	下腿三頭筋肉離れ		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
12	足関節捻挫		概説。発生機序、患者の肢位・外観を考慮し処置する 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
13	アキレス腱損傷		概説。発生機序、検査法 鑑別診断、整復・固定・後療法、指導管理を学ぶ		ペア
14	実技試験				ペア
15	まとめ				個人
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 80% 実習評価 10%	授業への貢献 10%
【教科書】	(公社)全国柔道整復学校協会監修 『柔道整復学・実技編』 第2版 (南江堂)				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習 I (1/2)		片桐秀樹			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	前期	23(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
学内で習得した知識と技術を基に臨床技術を高める。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①対象者に対して、基本的な実習をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる ④ ⑤				コミュニケーションスキル 問題解決力 知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	海洋リハビリテーション	基本的身体構造の理解とストレッチの活用について学ぶ			グループ
2	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで必要とする体幹機能について学ぶ①			グループ
3	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで必要とする体幹機能について学ぶ②			グループ
4	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我について学ぶ①			グループ
5	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我について学ぶ①			グループ
6	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ①			グループ
7	海洋リハビリテーション	マリンスポーツで発生する怪我の応急処置を学ぶ②			グループ
8	海洋リハビリテーション	医療従事者の資格取得を目指すべく職業倫理等を学ぶ			グループ
期末試験		評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習 I (2/2)		長坂 愛			担任
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
メディカルスポーツ柔道整復学科	1	後期	23(45)	実習	1
【授業の概要・目的】					
座学で習得した知識をもとに臨床技術を高め、臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を修得する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①基本的な実習を指導者の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の自覚を向上させることができる ④ ⑤				コミュニケーションスキル 問題解決力 知識・理解	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	医の倫理、レポートの書き方、守秘義務を理解する			グループ
2	医療者としての態度1	身嗜み、言葉遣い、規律性を身につける			グループ
3	医療者としての態度2	良好なコミュニケーションを築くことができる			グループ
4	付帯義務	施設衛生を保持できる			グループ
5	診察1	医療面接、触診ができる			グループ
6	診察2	計測、検査法、評価ができる			グループ
7	リスクマネジメント	柔道整復術のリスクマネジメントを調べる			グループ
8	包帯術	包帯固定の技術を身につける			グループ
9	テーピング技術	ホワイトテープ固定の技術を身につける			グループ
10	後療法	物理療法、手技療法を身につける			グループ
11	後療法	手技療法、運動療法を身につける			グループ
12	介助	案内、ベッド移乗介助を身につける			グループ
13	症例検討	症例報告書を作成できる			グループ
14	施術録の作成	施術録を作成できる			グループ
15	社会保障	療養費支給申請書の書き方を身につける			グループ
期末試験		評価方法	レポート 受講態度	80% 20%	
【教科書】	特になし				
【参考書】	特になし				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習復習をしっかりと行う。			
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		